



▲たわわに実った稲穂を担ぐ青年部員

青年部が刈り取りを行い

収量や刈り取り適期を確認

今年の稲の作柄を占う、JA青年部（藤田清樹部長）の多収穫競争会が9月14日に行われ、能代・二ツ井地区の計22カ所の圃場を刈りました。

総重量を計測した結果、10a当たりの最高収量は643・2kgで、平均収量は544・1kg。今年には春先の低温や暴風雨、夏場の高温少雨などで生育への影響が心配されましたが、1穂当たりの粒数は少ないものの、穂数が多く確保されており、作柄は平年並みとなりました。



▲女性部からの寄贈に笑顔の利用者

利用者の健康のために

女性部が野菜やタオルを寄贈

JA女性部能代支部は9月7日、市内3カ所の老人保健施設に対し、とれたて野菜とタオルの寄贈を行いました。

このうちデイサービスセンターいなほの里には、佐々木博子支部長をはじめ3名の女性部員が訪問。女性部員が「新鮮な野菜を食べて、もっと元気になってください。」と声をかけながら野菜を手渡すと、「立派な野菜ばかりで、見ているだけで元気になりました。」と利用者が笑顔でお礼を述べていました。



▲初戦を逆転勝ちで制した四儘ジュニアスポーツ少年団

惜しくも2回戦で敗退

JA共済学童野球大会

児童の体力強化と健全なスポーツ精神の育成を目的とした、第10回JA共済学童野球大会が9月15日と16日の両日、秋田県営球場などで開催されました。

当JAからは四儘ジュニアスポーツ少年団が参加。1回戦で八幡平小学校クラブに7対5で勝利すると、続く2回戦では金岡ゴードンヒルズと対戦。初回到5点を先制されると、終始相手のペースで試合され、残念ながら12対1で敗れました。



▲ひとつひとつ丁寧に検査する担当者

実りの秋を迎え

平成24年産米の検査を開始

平成24年産米の品質を確認する米初検査が、9月19日から管内の各地区倉庫で行われました。

今年には春先に低温や暴風雨がありましたが、その後天候が回復したことで、稲の生育は順調に推移しました。検査の結果、9月末時点での一等米比率は96・5%となりました。担当者は「地域によって着色粒や被害粒が見られるが収量はまずまずなので、今後の収穫に期待したい。」と話し、新米の検査に励んでいました。